

令和 8 年 4 月 30 日

大阪府教育委員会
教育長 水野 達朗 様

少年自然の家共同事業体 代表者
533-0033
大阪市東淀川区東中島 1-20-14
公益財団法人 大阪ユースホステル協会
会 長 平 岡 龍 人

令和 7 年度大阪府立少年自然の家の事業報告書の提出について

大阪府立少年自然の家基本協定書第 7 条の規定により下記のとおり報告します。

記

1. 主なとりくみについて
2. 事業実績について
3. 収入実績について
4. 損益計算書
5. その他の実績について
6. 利用者満足度について
7. 事故・苦情処理について
8. 利用実績について
9. サービスの安定性評価
10. 利益処分計算書

以 上

令和7年度 事業報告書

1 - 1 主な取組み

年間利用者数

宿泊利用 47,631人 日帰り利用 36,639人 合計 84,270人

事業の状況

(重点的な取組み)

- ・関係法令を遵守した運営
- ・創意工夫やノウハウを活用し、合理的かつ効率的な業務の実施
- ・利用者目線に配慮した、利便性と、安心、安全な施設運営。
- ・施設の特性を生かした企画、時代に合わせたニーズのプログラムの提供。
大阪府の体験活動推進を目的とした学校へ「出前講座」を実施。
- ・SNSなどを利用した効果的な広報と、フォロワー数の増加。
- ・SDG`Sを意識した環境への取り組みを実施。
- ・企業、他団体、近隣施設との協働。ノウハウを取り入れたサービス向上。

(事業)

主催事業

災害に備える支援事業	1事業
長期宿泊体験事業	2事業
読書活動と結びついた自然体験の推進事業	2事業

自主事業

障がいを抱える青少年への支援事業	1事業
フォレストジュニアクラブ（森の学校）	1事業
子どものための自然体験活動	1事業
ホテル観賞のタベ	1事業
自然をまるかじり	1事業
ファミリーキャンプ	1事業
大阪府アドプトフォレスト	1事業
自然環境・野外活動指導者養成事業	1事業
自然の家専属指導者の育成事業	1事業
近隣市町村との連携支援事業	1事業
（おおさか元気広場「出前講座」等）	
インターンシップ（就労体験）推進事業	1事業

その他自主事業

おとなのための自然体験活動	1事業
家族でたき火を楽しむ事業	1事業
子育てを応援する事業	2事業
バーベキューガーデンを使用したイベント	1事業
（上記の読書、ホテル、まるかじり、でも使用）	
開かれた施設としての地域連携	1事業
お泊りパック	3事業

(食堂)

- ・フードロスを意識した献立づくりと原材料導入（廃棄量を少なくする）
- ・残食量調査やアンケートによる利用者の嗜好調査とメニュー作り
- ・利用者のニーズに合わせた献立作成、対応時間対応
 - ※アレルギー対応、宗教対応食、早朝退所団体などへの時間配慮
- ・集団で食事を摂ることができない児童・生徒に対して、別室での個食対応など、安心して食事をしてもらう取り組み
- ・フードロスを意識した少数対応用の厨房機器の導入
- ・野外炊飯や補食・夜食のアレルギーや疾病による食事制限、咀嚼・嚥下障がいのある方へのペースト食や刻み食の提供など、要望に応じて対応

(館内設備)

- ・宿泊棟
 - エアコン・換気扇交換等の設備更新
 - トイレ仕切板補修工事
 - B棟手摺破損修理
 - 宿泊棟暖房（ファンコンベクター）点検
 - 冬期用毛布配置
- ・本館
 - 本館トイレ照明 LED 化促進
 - 玄関天井ボード貼替
 - 玄関自動ドア点検
 - つどいの広場女子トイレ洋式化工事
 - 本館2階男子トイレ修繕
 - 特別清掃（WAX 掛等）
- ・オリエンテーションホール
 - 空調設備整備・修繕
 - 照明設備整備
 - 投影スクリーン昇降機修繕
 - 投影スクリーン更新
 - 暖房設備点検
 - 冷却塔ストレーナー交換
 - ピアノ調律
- ・その他
 - クラフト室エアコン新設
 - 第2電気室吸気ファンVベルト交換
 - 掲揚台タイル補修
 - 軽トラック更新
 - 防火ダンパー修繕（厨房用）
 - 厨房給湯器更新
 - ボイラー三方弁更新
 - 大研修室奥厨房ダンパー更新工事

冷却塔ボールタップ取替

法定点検の実施（ボイラー・害虫防除・空気環境測定・水質検査）

（食堂設備）

厨房設備整備・修繕（食洗機、プレハブ冷蔵庫、空調、排水設備、分電盤）

厨房吸排気ガラリ清掃

配膳台上コンロ更新

食堂イス年次更新（大阪府対応）

厨房防火ダンパー更新工事

（野外設備）

進入路（1号道路・2号道路）アスファルト舗装補修

倒木処理・高枝剪定

進入路および施設周辺除草作業

野外炊飯場整備（灰捨て場整備、野外倉庫照明更新）

バーベキューガーデン流し台テント整備

野外食器用具洗浄および調理器具整備

マキ搬送用リアカー増備

体育館貸出ボール更新

野外トイレ修繕

体育館女子トイレ修繕

（利用促進に向けた施設サービスの向上に関する提案）

Google フォームを活用した事業申込手続きの簡略化

動画共有サービスを活用した施設案内および下見対応の効率化

Zoom を活用したオンライン打ち合わせの引き続きの実施

教員向け野外調理試作調理の引き続きの実施

バーベキューガーデン奥貝塚におけるガーデンイベントの実施

少人数向けテントサイトの活用

利用団体の要望に応じたプログラム指導員の派遣

宿泊棟各階入口への暗証番号式スマートロックの活用

Wi-Fi 環境の整備拡大

（業務委託・保守点検状況）

警備保安管理業務

日常清掃業務

ボイラー（空調・温水ヒーター）運転管理業務（月1回）

浴槽水質検査業務（10月）

受水槽清掃業務（12月）

汚水処理施設維持管理（毎月所定回数）

汚泥搬出業務（8月・3月）

浄化槽検査業務（10月）

遊離残留塩素測定（毎日）

自家用電気工作物保安管理業務（月次および年次点検1回）

アスレチック遊具点検（6月）

消防設備等点検（9月・3月）

防火設備定期点検（9月3月）

建築設備点検（10月）

特定建築物長長（１０月）
 防火対象物点検（１０月）
 外壁全面打診調査（８月）
 空気環境測定（４月・６月・８月・１０月・１２月・２月）
 厨房・食堂害虫駆除（６月・９月・１２月・３月）
 ボイラー排ガス測定（９月・３月）
 簡易専用水道水質検査（１６項目）（６月）
 簡易専用水道水質検査（１１項目）（１２月）
 小荷物専用昇降機検査（７月）
 ＬＰガス強制気化装置（ペーパーライザー）点検（７月・１１月・３月）
 灯油地下タンク保守点検検査（３月）
 特別清掃（２月）
 自動ドア点検（１１月）
 大型フロン機器定期点検（３月）
 公用車６か月毎点検
 ゴミ回収業務（週１～３回）
 敷地内除草業務（随時）
 温水ヒーター（ボイラー）点検（毎月）
 自賠責保険・見舞金制度加入（４月）
 施設・設備補修業務、物品修理業務、施設管理用物品購入業務、
 植栽・山林管理業務、
 野外施設等保守点検業務（以上、随時）

1 - 2 . 主な取組みに対する総括・自己評価

令和 7 年度の利用者数は年間 84,270 人となり、目標数である 87,000 人に対して 96.9%、前年度 92,303 人に対して 91.3%（▲8,033 人）となった。宿泊利用は 47,631 人で前年度比 98.6%と前年水準を概ね維持した一方、日帰り利用は 36,639 人で 83.3%にとどまり、学校団体利用の減少が全体の減少に影響する結果となった。

利用においては、大阪・関西万博の開催に伴う貸切バスの確保困難および料金高騰の影響により、学校団体で行先変更や利用見送りが発生した。特に上半期はその影響が大きく、利用者数は 56,044 人、前年度比 85.30%となった。月別でも 4 月から 6 月にかけて前年同月比 70～80%台で推移している。一方、7 月以降はスポーツ団体や青少年団体、一般利用の増加により利用構成が変化し、回復傾向が見られた。8 月は前年同月比 120.7%となり、秋以降は春からの利用時期変更等により学校団体の利用も一部戻った。下半期は 28,226 人、前年度比 106.0%となり、前半の減少を後半で一部補う結果となった。

事業においては、主催・自主事業を年間を通じて実施した。季節型事業として「流しそうめん体験」は 10 回で 347 人、「たき火を楽しもう」は 4 回で 312 人の参加があった。また、「第 40 回オープンデー」関連事業では 1,139 人の参加があり、冬季の利用促進につながった。一方で、ゴールデンウィーク期間の一部事業では応募が少ない回もあり、需要にばらつきが見られた。フォレストジュニアクラブやもりのこクラブは年間を通じて実施し、継続的な参加が見られた。

あわせて、府教育委員会と連携した出前プログラムや地域への出張講座を実施し、施

設外での活動も継続した。複数の自治体から継続的な依頼があり、地域との関係維持に寄与した。

施設管理においては、空調、照明、厨房設備、水回り等の更新および修繕を計画的に実施した。LED化や空調整備、厨房機器の更新を進めるとともに、ボイラー、空気環境測定、水質検査等の法定点検を実施した。また、宿泊棟や浴室、野外炊飯場等の補修を行い、施設機能の維持に努めた。

運営面では、職員研修や関係機関との連携を継続し、運営体制の維持を図った。また、ボランティアリーダーの育成・活用を行うとともに、企業研修、スポーツ団体、宗教団体など多様な利用者の受入を行った。

本年度は10年間の指定管理期間の最終年度であり、次期指定管理においても引き続き受託することが決定した。これにより、次年度から新たな10年間の運営を担うこととなる。

以上のとおり、令和7年度は外部要因の影響により年間利用者数は前年度を下回ったが、下半期に回復傾向が見られ、年間を通じて一定の利用規模を維持した。次年度は新たな指定管理期間の初年度として、本年度の状況を踏まえ、安定的な利用確保と運営の改善に取り組む。

		事業名	自主/ 主催	宿泊/ 日帰り	実績数 (人)	参加 人数	備考	
4月	4/26(土)-27(日)	GWお泊りバック①	他自	泊	7	2		
	4/28(月)-29(火祝)	GWお泊りバック②					応募なし	
	4/29(火祝)-30(水)	GWお泊りバック③					応募なし	
	4/30(水)-5/1(木)	GWお泊りバック④					応募なし	
5月	5/1(木)-2(金)	GWお泊りバック⑤					応募なし	
	5/2(金)-3(土祝)	GWお泊りバック⑥					応募なし	
	5/3(土祝)-4(日祝)	GWお泊りバック⑦	他自	泊	14	4		
	5/4(日祝)-5(月祝)	GWお泊りバック⑧	他自	泊	39	11		
	5/5(月祝)	GW日帰りバック	他自	日	4	1		
	5/5(月祝)-6(火祝)	GWお泊りバック⑨	他自	泊	20	6		
	5/10(土)-11(日)	GWお泊りバック⑩					応募なし	
	5/11(日)	親子deしぜんのようちえん①	他自	日	27	12		
	5/17(土)	ガーデンイベント①(えほんでいただきます①)	主催	日	12	5		
	5/18(日)	ガーデンイベント①(えほんでいただきます②)	主催	日	16	5		
6月	5/31(土)	ガーデンイベント②(ホタルのタベ①)日帰り					参加者数のため中止	
	6/1(日)	ガーデンイベント②(ホタルのタベ②)日帰り	自主	日	18	6		
	6/7(土)	ガーデンイベント②(ホタルのタベ③)日帰り	自主	日	41	10		
	6/8(日)	ガーデンイベント②(ホタルのタベ④)日帰り	自主	日	34	12		
	6/14(土)-15(日)	フォレストジュニアクラブ①	自主	泊	23	-		
	6/22(日)	もりのこクラブ①	他自	日	34	-		
	6/28(土)-29(日)	そぶらリーダー研修①	自主	泊	8			
	7/6(日)	親子deしぜんのようちえん②	他自	日	33	12		
	7/20(日)	こどもシャワークライミング①	自主	日	27			
	7/21(月祝)	こどもシャワークライミング②	自主	日	23			
8月	8/2(土)	ガーデンイベント③(流しそうめん体験①)	他自	日	21	5		
	8/3(日)	ガーデンイベント③(流しそうめん体験②)	他自	日	28	7		
	8/5(火)-8(金)	中高生チャレンジキャンプ(3泊)	主催	泊	19			
	8/10(日)-14(木)	こどもワイルドキャンプ(4泊)	主催	泊	21			
	8/12(火)	ガーデンイベント③(流しそうめん体験③)	他自	日	32	7		
	8/13(水)	ガーデンイベント③(流しそうめん体験④)	他自	日	39	7		
	8/14(木)	ガーデンイベント③(流しそうめん体験⑤)	他自	日	33	5		
	8/15(金)	ガーデンイベント③(流しそうめん体験⑥)	他自	日	32	5		
	8/23(土)	おとなのえんそく①(シャワークライミング)	他自	日	6			
	8/23(土)	ガーデンイベント③(流しそうめん体験⑦)	他自	日	7	2		
	8/24(日)	ガーデンイベント③(流しそうめん体験⑧)	他自	日	55	9		
	8/30(土)	ガーデンイベント③(流しそうめん体験⑨)	他自	日	56	10		
	8/31(日)	ガーデンイベント③(流しそうめん体験⑩)	他自	日	44	6		
	8/31(日)	もりのこクラブ②	他自	日	31			
	9月	9/6(土)-7(日)	フォレストジュニアクラブ②	自主	泊	35		
9/13(土)-14(日)		秋のお泊りバック①					満室のため中止	
9/14(日)-15(月祝)		秋のお泊りバック②					満室のため中止	
9/23(火祝)		防災DAYキャンプ(72Hサバイバル)	主催	日	28			
9/27(土)-28(日)								
10月	10/4(土)-5(日)	ファミリーキャンプ①	自主	泊	56	18		
	10/12(日)-13(月祝)	ファミリーキャンプ②	自主	泊	27	9		
	10/18(土)-19(日)	そぶらリーダー研修②	自主	泊	15			
	10/26(日)	第36回 乗馬体験と臨床動作法	自主	泊	29	10		
11月	11/1(土)-2(日)	秋のお泊りバック①	他自	泊	6	2		
	11/2(日)-3(月祝)	秋のお泊りバック②	他自	泊	7	2		
	11/9(日)	もりのこクラブ③	他自	日	26			
	11/15(土)	おとなのえんそく②(ツリーイング)	他自	日	13			
	11/16(日)	第18回大阪府アドプトフォレスト	自主	日	66	23		
	11/22(土)-23(日祝)	秋のお泊りバック③					満室のため中止	
	11/23(日祝)-24(月祝)	秋のお泊りバック④	他自	泊	30	10		
	11/30(日)	親子deしぜんのようちえん③	他自	日	20	8		
	12月	12/6(土)-7(日)	フォレストジュニアクラブ③	自主	泊	29		
		12/13(土)-14(日)	クリエイターキャンプ①	他自	泊	12		
12/20(土)		ガーデンイベント④(自然をまるかじり・ガッツオーブ①)	自主	日	15	4		
12/21(日)		ガーデンイベント④(自然をまるかじり・ガッツオーブ②)	自主	日	37	10		
2026年 1月		1/10(土)-11(日)	冬のお泊りバック①	他自	泊	9	3	
	1/11(日)-12(月祝)	冬のお泊りバック②	他自	泊	25	9		
	1/18(日)	たき火を楽しもう①	他自	日	80	25		
	1/24(土)-25(日)	指導者養成講座 (サファゲ-リ-ダ-)	自主	日	10			
	1/25							

合計	実施事業数 (不定期含む・中止除く)		実施回数 (中止除く)	実績数 (人)
	主催事業	5	6	700
	自主事業	11	34	1321
	その他自主事業	10	40	2247
	計	26	80	4268

2 - 2 事業に関する総括・自己評価

令和7年度に実施した事業は中止を除き26事業、計80回。

参加者総数は4268人。(うち出前教室など不定期事業790人)

事業件数、回数とも昨年並みだが、参加人数の最も多い「オープンデー」が雨天で伸び悩んだほか、連休の並び方も影響しお泊りパックが数回中止になるなど、参加総数は前年の4989人より721人少なかった。

(各事業の参加人数は別表参照)

<主催事業> 5事業6回 700人

●長期宿泊体験事業

・「中高生チャレンジキャンプ」 (8/5-8・中高生)

3泊4日で各自シュルター設営、野外炊事、釣りや川遊びなどプログラムをグループ内で決定していく。例年より多い参加人数を活かして一部にグループ活動を導入したことで、参加者間の交流と全体のまとまりが強化された。運営面では「自主性の尊重」を方針にスタッフの関与を最小限に留めた結果、参加者が主体的に判断しリーダーシップを発揮する姿が見られた。次年度以降は期間を4泊へ延長することや、募集定員の拡大を検討。

・「こどもワイルドキャンプ」 (8/10-14・小4~6年生)

4泊5日で自然の大切さを学ぶことを目標に、竹とロープワークによる秘密基地づくりをメインプログラムとし、川遊び、野外炊飯、キャンプファイヤーを実施した。アンケートでも、「グループの皆と離れたくなくなった」「もっとキャンプがしたかった」といったコメントが多く、ねらいとしていた参加者同士の深いコミュニケーション、非日常感なども達成することができた。

●読書活動と結びついた自然体験の推進事業

・ガーデンイベント①「えほんでいただきます」 (5/17,18・幼児親子)

絵本に登場する料理をつくり、ストーリーに沿って自然に触れる活動を行うことで、絵本の世界観を体験することで想像力を養う事業。今回は『14 ひきのびくにつく』の内容に沿っておにぎりをつくってピクニックを体験した。あわせて貝塚市図書館などから150冊を借り受け、絵本の世界に幅広く触れるようにした。

・「えほんのひろば」 (2/11・家族)

オープンデーと併催。貝塚市図書館より300冊の絵本借り受け、広間で好きな絵本を親子で寝転んで読むなど自由なスタイルで読書を楽しんでいた。ただけた。

●災害に備える支援事業

・「防災 day キャンプ」 (9/23・小学生以上)

災害時に役立つスキルとして72時間サバイバル教育協会の規定に基づき、手作りのろ過装置を作成する実験や、水に関する防災検定を実施した。

小学生から大人まで参加し、リピーターの受講も見られた。検定では不合格者にも丁寧なフィードバックを行うことで、次回の合格に向けた意欲と防災への理解を深めた。

<自主事業> 11事業34回 1321人

●障がいを抱える青少年への支援事業

・「乗馬体験と臨床動作法」 (10/26・府内支援学校小学部の生徒と親子)

ホースセラピーを活用した長年行っている事業。外部講師と学生ボランティア、近隣の乗馬クラブの協力連携により、「遊び」「臨床動作法講座」「乗馬体験」を実施している。

各参加児童にボランティアが付添うなど、保護者が安心して参加できる環境づくりを大切に、乗馬体験を通じて子どもたちが情緒的な安定や達成感を得たほか、臨床動作法がリラクゼーションや家族の心理的ケアに寄与している。普段できない体験と、児童の普段見られない嬉しい表情に、毎回、保護者の皆様から感謝の声を頂けている。

なお、助成元については前回までの国立青少年教育振興機構「子どもゆめ基金」から、手続処理が簡便な日本キャンプ協会「体験の風をおこそう運動推進事業」に切り替えた。

●フォレストジュニアクラブ (6,9,12,3月、計4回・1泊2日・小3~6年生)

年間を通して小学校高学年を対象に、グループ活動により協調性を育み、協力して目標を達成する楽しさを体験する事業。野外炊事、テント設営のほか、星空解説など、フィールドを活かした自然体験活動を四季折々に展開。

児童たちが自ら考え、判断し、表現する力の育成に重点を置き、具体的な活動を通じてその成長が確認された。課題に対して粘り強く取り組む姿勢や、他者と協力して解決策を見出す主体的な態度の向上が見られた。

●こどものための自然体験活動

・「こどもシャワークライミング」 (7/20,21・小3~6年生)

近隣のフィールドを利用し本格的な沢登りを行う体験事業。大変人気が高く午前午後の2交代制で実施している。安全確保が重要なため事前に職員実習を行っている。

●ホテル観賞、自然をまるかじり

・ガーデンイベント②「ホテルのタベ」 (5/31,6/1,7,8・家族)

大変人気が高い事業で2週にわたり4回設定(初回のみホテルが少なく中止)。土曜日は宿泊も選択可。観察の前に里山の自然を含めた講座を設けるなど、最も環境教育に直結している事業を継続できている。

・ガーデンイベント④「ダッチオープンで鶏の丸焼きをつくろう」 (12/20,21・家族)

食育をテーマにした事業。丸鶏の状態から調理することで「いのちをいただく」ことを実感できるほか、ダッチオープンをういた本格的なキャンプ料理を体験できることから人気が高い。

●ファミリーキャンプ

・「秋のファミリーキャンプ」 (10/4-5,12-13・家族)

初心者でも気軽に家族でキャンプを楽しめる事業。応募多数につき1回追加した。

今回は「ハロウィン」をテーマに、季節感を楽しめる内容で、テント設営・ジャック・オ・ランタン作り・キャンプファイヤー・棒パン作りなど実施。作品づくりを通して会話が生まれ、家族で楽しみながら体験する姿が多く見られ、他の家族同士との交流も自然に生まれ、和やかな雰囲気参加者の満足度も高かった

●大阪府アドプトフォレスト

・「冒険の森づくり」 (11/16・小1~中3と家族)

清水建設、大阪府泉州農と緑の総合事務所との連携事業。森の大切さや役割を学び、自然に親しんでもらうことを目標に竹材の工作、ロープを使った木登り「ツリーイング体験」を行った。

●自然環境・野外活動指導者養成事業

・「ネイチャーゲームリーダー養成講座」 (1/24-25・大人)

自然を楽しみながら学ぶ指導者資格の取得を目的とした2日間の講習会。学生や幼稚

園教諭など、想定よりも広範囲から参加者が集まった。「指導者としての意識が変化した」「現場ですぐに使えそう」といった前向きな意見が多く寄せられた。

●自然の家専属指導者の育成事業

- ・「そぶらリーダー」研修（**6,10,2**月、計**3**回・大学生/社会人）

事業のグループリーダー、サポートを担う学生を中心としたボランティアリーダーの研修。児童との接し方、アウトドアスキルなど、安全に事業運営を遂行できるようカリキュラムを実施している。

●近隣市町村との連携支援事業

- ・おおさか元気広場「出前講座」（随時受付・主に小学生）

小学校の放課後児童クラブ等から各市教育委員会、府教育庁地域教育振興課を介し、スプーン作りやロープ遊び、テント設営やスラックライン（綱渡り体験）などの体験プログラムを出張で提供している。今年度は10校より要請をいただいた。

- ・教育委員会等、自治体からの出張講座

羽曳野市放課後子ども教室代表者会議、河南町教育委員会、堺市泉ヶ丘ライブタウン会議などから、ロープあそび、たき火体験、スラックラインの要請があった。

●インターンシップ(就労体験)推進事業（随時・大学生）

主に大阪教育大学、大阪体育大学からの受入を行った。実人数で21人が事業のサポート、施設の整備などを体験された。

<その他自主事業> 10事業 40回 2247人

●おとなのための自然体験活動

- ・おとなのえんそく①「シャワークライミング」（**8/23**・大人）
- ・おとなのえんそく②「ツリーイング体験」（**11/15**・大人）

大人を対象に童心にかえり自然の中でのんびり過ごす体験事業。主プログラムに加えシャワークライミングでは竹箸の制作、ツリーイング体験ではピザ窯で「本格ピザ作り」を行った。ピザ窯は満足度が非常に高く、他事業への展開も期待される。いずれもリピーターが増加傾向にあり、リピーター層の獲得に成功している。

●ニーズに応じて対応する「シルバー世代を対象とした体験学習活動は該当なし。

●家族で焚き火を楽しもう

- ・「たき火を楽しもう」（**1-3**月、計**4**回・家族）

身近で行うことが難しくなった「たき火」を家族で自由に楽しんでいただく事業。冬の閑散期の利用促進として実施。焼き芋など工夫を楽しむリピーター、グループでの参加も増えてきている。

●子育てを応援する事業

- ・「親子 *de* しぜんのようちえん（**5,7,11,1**月、計**4**回・4-5歳児と家族）

園児を含む家族を対象に、四季折々の自然体験（野草の天ぷら、どろんこ遊び、落ち葉滑り、雪遊びなど）を提供。豊かな自然の中で感性のままに楽しむという目標を十分に達成し、親子でゆったり過ごせる点について参加者から毎回非常に高い満足度を得た。課題としては、募集定員を超える人気がある一方、冬季などは感染症による直前キャンセル

への対応が課題となりました。今後も講師との連携を密にし、四季の魅力を活かしたプログラムを継続していく。

・「もりのこくらぶ」(6,8,11,3月、計4回・小1~2年生と家族)

「しぜんのようちえん」から「フォレストジュニアクラブ」への移行年代を対象に行う野外体験事業。保護者が随伴しない日帰り事業だが、最終回は一人でお泊りを体験し自立を目指した。

1年間の継続的な活動を通じて、子どもたちが火おこしや調理などの野外技術を習得し、異年齢集団の中での思いやりや主体性を育むことができた。季節に合わせた野外炊事やクラフト活動が好評で、特に子どもたちが自分で考え、工夫できる時間(自由時間やメニュー選択)が満足度の向上に繋がった。今後の課題としては、低学年のリピーター増に対し、高学年の参加率維持やプログラムのマンネリ化防止が課題であり、次年度は発達段階に応じた難易度の設定や、新たな活動場所の開拓が検討される。

●バーベキューガーデンを使用した事業

・ガーデンイベント③「流しそうめん体験」(8月、計10回・家族)

バーベキューガーデンの利用を促進する事業。ほかに「①えほんでいただきます」は主催事業として、「②ホテルのタベ」、「④ダッチオープン」は自主事業として実施している。「流しそうめん」は、そうめんを流す樋のセットを家族で相談・協力して組み立てることで家族の絆を深める効果もあり、好評を得ている。

●開かれた施設としての地域連携

・「第40回オープンデー」(後夜祭、前泊パック含む) (2/11・家族一般)

開所以来続く事業。周辺地域を含む各種企業・公共施設に協力いただき、セミナーやクラフト、体験会など施設を丸ごと楽しんでいただけるイベント。入所は無料。閑散期の利用促進も兼ねており、オプションとしてキャンプファイヤーを楽しめる「後夜祭パック」に加え、今年から「前泊パック」も設定した。SNSを活用した広報に注力したが、当日は雨天の影響により人数は伸び悩んだ。(併催の主催事業「えほんのひろば」を除き1,139人)

●お泊りパック

・「ゴールデンウィークお泊りパック」 (4/26-5/11、計5回・家族一般)

・「秋のお泊りパック」 (11月、計3回・家族一般)

・「冬のお泊りパック」 (1,2月、計4回・家族一般)

家族で気軽に施設を利用して頂けるよう食事、アクティビティをパッケージングした事業。連休など繁忙期の事務対応の軽減、冬季閑散期の利用促進も兼ねている。季節に応じた野外料理のほか、クラフト、スポーツなど自由に選んでいただける選択プログラムを用意。今年度のゴールデンウィークは連休の並びが悪く、予定10回のうち5回は応募が無く中止となった。

●クリエイターキャンプ

・「クリエイターキャンプ」 (12/13-14・小4~6年生)

「自然の家のPR」をテーマにグループで企画・撮影・編集など動画制作を通じた協力体制の構築やネットリテラシーの習得を行う事業。「Canva」による共同編集や生成AIの活用が好評だった。参加者の技術水準も高く、次年度以降は対象年齢や内容構成を含め、事業の方向性を再検討する。

3-1. 収 入 実 績

施設総収入額

(1) 宿泊等部門

96,590,985円

項 目	計 画	実 績
利用料金収入	52,060,000円	54,579,020円
事業収入他	47,241,000円	42,011,965円
総 収 入	99,301,000円	96,590,985円

(2) 食堂等部門

102,070,110 円

項 目	計 画	実 績
食堂料金収入	106,173,000円	101,155,940円
事業収入他	1,459,000円	914,170円
総 収 入	107,632,000円	102,070,110円

(3) 府管理運営委託料

59,958,000円

3-2. 収入に関する総括・自己評価

本年は、大阪・関西万博の開催で、学校団体の利用変更や貸切バスの確保の困難及び高騰などで春の学校団体利用が減少するなどの影響を受けた。しかしながら、春休みの青少年団体やスポーツ団体の利用や、秋に利用変更を行った学校の宿泊等があった。その結果、利用料金収入は計画を上回り、宿泊等部門の総収入は計画に対して97.3%となった。食堂等部門の総収入は計画に対して94.8%となった。年度途中(7月)に食堂料金の値上げも行ったが摂食率の下落をカバーするまでには至らなかった。

4-1. 損 益 計 算 表

(1) 総括損益計算書

項	目	金 額
宿泊部門総収入	①	96,590,985円
食堂部門総収入	②	102,070,110円
管理運営委託費	③	59,958,000円
施設総収入	④	258,619,095円
宿泊部門総支出	⑤	159,635,249円
食堂部門総支出	⑥	97,219,339円
施設総支出	⑦ (⑤+⑥)	256,854,588円
損益	⑧ (④-⑦)	1,764,507円

(2) 部門別損益計算書

項	目	合計	総収入 対比率	宿泊等部門	食堂等部門
利用料金収入	A	54,579,020円	21.1%	54,579,020円	
食堂収入	B	101,155,940円	39.1%		101,155,940円
事業収入他	C	31,916,879円	12.3%	31,916,879円	
自主事業収入	D	9,456,966円	3.7%	9,456,966円	
自主事業収入 (バーベキュー場運営)	E	1,552,290円	0.6%	638,120円	914,170円
管理運営委託費	F	59,958,000円	23.2%	59,958,000円	
助成金等	G	0円	0.0%	0円	0円
総収入 H (A~G合計)		258,619,095円	100.0%	156,548,985円	102,070,110円

事業費用	J	256,854,588円	100.0%	159,635,249円	97,219,339円
人件費		109,763,763円	42.7%	82,158,850円	27,604,913円
光熱水費		31,256,753円	12.2%	20,378,595円	10,878,158円
消耗品費		4,778,617円	1.9%	2,950,202円	1,828,415円
宣伝費		997,796円	0.4%	997,796円	0円
原材料費		60,414,925円	23.5%	10,971,480円	49,443,445円
修繕費		3,727,759円	1.5%	3,727,759円	0円
手数料		147,681円	0.1%	149,001円	-1,320円
委託料		13,566,207円	5.3%	13,566,207円	0円
公租公課費		12,815,047円	5.0%	8,337,289円	4,477,758円
賃借料		1,356,396円	0.5%	1,353,096円	3,300円
施設整備費		2,023,034円	0.8%	2,023,034円	0円
その他		7,331,826円	2.9%	4,806,922円	2,524,904円
自主事業に係る経費		8,674,784円	3.4%	8,215,018円	459,766円
損益	(H-J)	1,764,507円		-3,086,264円	4,850,771円

4-2. 損益に関する総括・自己評価

令和7年度は1,764,507円の黒字となった。収入構成は、食堂収入が101,155,940円（構成比39.1%）と最も大きく、次いで管理運営委託費59,958,000円（23.2%）、利用料金収入54,579,020円（21.1%）となっており、これらが施設運営を支える主要な収入源となっている。

部門別では、宿泊等部門は総収入156,548,985円に対し、総支出159,635,249円となり、3,086,264円の赤字となった。一方、食堂等部門は総収入102,070,110円に対し、総支出97,219,339円となり、4,850,771円の黒字を確保しており、施設全体の収支を下支えする結果となった。

費用面では、人件費が109,763,763円で全体の42.7%を占め、引き続き最も大きな支出項目となっている。次いで原材料費60,414,925円（23.5%）、光熱水費31,256,753円（12.2%）となっており、食材価格やエネルギー価格の高止まりが継続する中、適切な経費管理に努めることができたとして自己評価している。

令和7年度は、大阪・関西万博の影響による貸切バス不足や輸送費の高騰により、学校団体を中心に利用動向へ一定の影響があったものの、スポーツ団体や企業利用、自主事業の充実による収入確保に加え、支出管理を継続した結果、年間収支は黒字を確保することができた。今後も利用促進と効率的な施設運営の両立を図り、安定した経営基盤の維持に努めていく。

5-1. その他の実績（従業員研修、個人情報の保護及び情報公開体制等）

職員研修

事業所内での研修に加え、整備や衛生管理に必要な技術の習得、外部の研修会や青少年教育施設が主催する研修、情報交換会、実践発表などにも積極的に職員を派遣し、知識の習得とスキルアップを図った。

4月16日～17日	近畿地区青少年教育施設協議会総会・所長研修	1名
4月17日～18日	近畿地区青少年教育施設協議会新人研修	2名
5月13日～14日	職員研修 72時間サバイバル、ディレクター研修	2名
5月26日～27日	職員研修 ツリーイングクライマーT-2 職員受講	2名
6月23日	職員研修 自主衛生管理講習会（岸和田保健所に講師要請）	12名
6月30日	青少年活動財団 全体研修	3名
8月23日	指定管理者、現地説明会	2名
10月6日	和歌山県こども未来課 施設見学	1名
10月27日	消防訓練	17名
11月1日	日本ユースホステル協会、日独指導者セミナー、ドイツより見学（12名）	1名
12月4日	近畿地区青少年教育施設協議会、所長研修	1名
12月5日	岸和田保健所、給食研究会、衛生講習	4名
12月10日	貝塚警察署、テロ対策説明会	1名
1月24日～25日	職員研修 ネイチャーゲームリーダー養成講座受講	2名
2月6日～8日	職員研修 野外活動指導者養成講習会受講/静岡県	1名
2月16日	青少年活動財団 人権研修	3名
2月18日	大阪ユースホステル協会 全体研修・人権研修	7名
2月25日	大阪府青年の家等連絡協議会総会	3名
3月9日	消防訓練	12名
3月29日	貝塚市「ゆったりウォーク」協力	1名

個人情報の保護等

個人情報取り扱い規程に基づき、入手した個人情報は適切に管理した。

情報公開について

管理運営業務に関する書類を備え置いている。情報公開の請求はなかった。

5-2. その他の実績に対する総括・自己評価

職員のスキルアップや知識向上を図るため、個々のレベルに応じて計画的に外部研修会への派遣や自主研修を実施した。府や市町村主催の研修・調査にも積極的に参加し、見識を深めた。リーダー育成にも注力し、4月にオンライン説明会、6月・10月・2月にリーダー研修を行い、野外活動に必要なスキル、子どもたちへの接し方、危機管理対応など、リーダーとしての基本技術の習得に努めた。

また、近畿地区青少年教育施設協議会や大阪府青年の家等連絡協議会を通じて、他施設との情報交換や合同研修を行い、施設間ネットワークの強化と若手職員の育成、さらに青少年育成活動の活性化に努めた。

毎月実施している全体会議においては、情報共有を図るとともに、危険回避・安全対策・衛生管理・人権問題に関する知識の共有と職員間の相互理解の促進に努めた。

事業申し込みにおいては、Google フォームを活用し、申込手続きの簡略化と効率的な募集を行った。また、申し込み時に個人情報の取り扱いについて、案内送付や写真提供に関する同意確認を徹底し、個人情報保護に努めた。

6-1. 利用者アンケートについて（満足度・改善要望等）

令和7年度4月～3月分の「利用者アンケート」の集計について ※回収率92%
(以下カッコの値は前年度)

1. 当施設をどのような方法で知りましたか？ ※回答数612件

過去に（以前に）利用して知っていた	67%（73%）
ホームページから知った	21%（16%）
口コミ	6%（8%）
その他（DM, SNSなど）	6%（3%）

2. 施設についての満足度（宿泊棟・体育館・研修室・野外活動施設等）※回答数622件

満足	83%（78%）
普通	17%（21%）
不満	1%以下（2%）

<改善要望>

- 洋式トイレの数を増やしてほしい。和式を使ったことが無い児童が多い。
→ 使用頻度の多い場所から段階的に洋式に更新中。
(2025年3月：本館1階女子トイレ、2026年3月：つどいの広場女子トイレ、全て洋式化)
- 体育館、クラフト室に冷房を付けてほしい。
→ 2025年度、クラフト室にエアコンを設置。
体育館は2027年度に設置予定だが、施設全体の許容最大使用電流値が不足しており、引き続き対応を府と協議中。

3. 職員の対応についての満足度（事前打合わせ・電話対応・利用当日の対応等）

※回答数619件

満足	89%（86%）
普通	10%（12%）
不満	1%以下（2%）

実施したプログラムの上位と意見（アンケート回答のあった分より）

① 野外炊飯161件 ② キャンプファイヤー123件 ③ 展望台ハイキング63件

<ご意見>

- 野外炊事・・・指導員が火加減を調節してくれて助かった
→ 有料の炊飯指導の依頼が増えてきました。

- キャンプファイヤー・・・雨天でもできる場所があるのは魅力的。
- 展望台ハイキング・・・子どもたちの達成感が大きかったです。
夜に実施。夜景がきれいでした。
- スプーンづくり・・・自然木（間伐材）でなくなり残念。
→供給が追いつかず加工品になりました。
- 紙すき体験・・・低学年でも体験でき、リサイクルに関心をもてた。
- ツリーイング・・・丁寧に教えてもらい、子どもの満足度も高かった。
→出来る場所が少なく、人気が高まっています。

6-2. 利用者アンケートに対する総括・自己評価

今年度は92%の回収率であった。

以前利用した団体が7割弱ある一方、ホームページやSNSで認知される割合が増え、PRを強化した効果が表れている。

施設については技師およびパート職員の増員により、安全および利便性の改善・修繕対応を迅速に行うことができた。かねてより要望の多い「トイレの洋式化」は使用頻度の高い共用エリアの女子トイレから徐々に進めており、「体育館の空調設置」は2027年度の設置にむけて府と協議を進めている。

食事関連は高評価を維持しており、食堂食の美味しさのほか、アレルギー対応、ハラル等の宗教食の細やかな対応に高い評価をいただいている。

プログラム関係では、キャンプファイヤーや野外炊飯の有料指導が好評で依頼が増えている。

7-1. 事故・苦情処理

令和7年度中に、医務室の使用や救急車要請時に団体に記載いただく「疾病・傷害などの記録」で報告があった事例は計57件。前年の66件から9件減少している。（団体内で対応・措置されたものは把握できていない）

内訳は複数回答で、発熱が22件で最も多い。その他の症状も含め途中帰宅が21件あった。

当年度はマムシに咬まれる事案が2件あり、いずれも発見後に不用意に手を出していたことが要因だった。

熱中症と思しき報告は3件程度あったが、年々減少しており、各団体における予防意識の向上が見られた。

苦情に関しては「暑さ・寒さ」に関するもののほか、「夜間、他団体が騒がしい」など利用者のマナーに関するものが一定数寄せられている。

7-2. 事故・苦情処理に対する総括・自己評価

事故・苦情に関しては影響度に応じ可能な限り迅速に措置し、再発を防止している。
上記、マムシの事案に関しては利用者に対する注意喚起や表示を行った。

トイレの洋式化については、府予算でつどいの広場女子トイレを全て洋式化した。
今後も老朽化によるトラブルが散発している電気・水道・空調などのインフラ設備と
合わせて、府と連携し改修を進めていく。

苦情に表れていないが、クラフト室のエアコン設置、ホームページ上での料金シミュ
レーターの設置、Google マップ上で施設内の写真を閲覧できるようにするなど、利便
性の向上を図っている。

8-1. 利用実績 (管理宿泊部門)

(1) 概要

			備 考
開所日数		337日	
休所日数		28日	
利用日数	宿 泊	277日	
	日帰り	309日	
利用件数	宿 泊	756件	
	日帰り	904件	
利用人数	宿 泊	47,631人	
	日帰り	36,639人	
一日平均利用件数	宿 泊	2.2件	
	日帰り	2.7件	
一日平均利用人数	宿 泊	141人	
	日帰り	109人	
利用料金収入状況 (単位:円)	宿 泊 棟	45,099,200円	
	テ ン ト	810,030円	
	日 帰 り	8,669,790円	
	合 計	54,579,020円	

(2) 利用内訳

区 分			団体数	人 数	備 考
宿 泊	宿泊棟	未就学	682件	1,024人	
		小学生		13,735人	
		中学生		8,855人	
		高校生		4,255人	
		他学生		4,648人	
		指導者		2,366人	
		他大人		11,678人	
		計		46,561人	
	テント	未就学	74件	14人	
		小学生		277人	
		中学生		103人	
		高校生		188人	
		他学生		49人	
		指導者		95人	
		他大人		344人	
		計		1,070人	
日帰り		未就学	904件	1,426人	
		小学生		11,062人	
		中学生		8,739人	
		高校生		1,811人	
		他学生		2,389人	
		指導者		2,325人	
		他大人		8,887人	
		計		36,639人	

(3) 宿泊利用実績に対する総括・自己評価

令和7年度の利用者数は84,270人となり、目標87,000人に対して約97%、前年度92,303人に対して91.30%(▲8,033人)となった。全体としては学校団体利用の減少が影響する結果となったが、宿泊利用については47,631人となり、前年度比98.58%と概ね前年水準を維持した。

宿泊利用の内訳を見ると、宿泊棟利用は46,561人、テント利用は1,070人となっている。宿泊棟では、小学生13,735人、中学生8,855人の利用が中心となっており、学校団体による利用が宿泊利用全体を支える構成となった。また、他大人11,678人の利用もあり、青少年団体や一般団体、スポーツ団体等、多様な利用につながった。本年度は、大阪・関西万博の開催に伴う貸切バスの確保困難や料金高騰の影響を受け、特に学校団体において行先変更や利用見送りが見られたが、秋以降は春からの利用時期変更や延期となっていた学校団体利用も一部戻ったことから、下半期全体では28,226人、前年度比105.96%と前年を上回る結果となった。

年間を通じて見ると、大阪・関西万博に伴う外部要因の影響を受けた一年であったが、その中でも宿泊利用については前年水準を概ね維持しており、後半には回復傾向も見られる結果となった。

8-2. 利用実績（食堂部門）

（1）概要

			備 考
売上収入状況	食 堂	74,943,258円	食堂＋補充用お茶
	野外炊飯	19,560,117円	
	そ の 他	6,652,565円	販売
	BBQ関連	914,170円	BBQ食材＋付帯収入
	合 計	102,070,110円	

（2）区分別食事売上状況

		食 数	売上額
食 堂	朝 食	36,066	22,250,110円
	特別食	178	219,456円
	昼 食	20,989	15,481,210円
	特別食	1,670	1,632,813円
	夕 食	32,247	31,914,260円
	特別食	3,180	1,794,389円
	雑収入	0	286,230円
野外炊飯		26,237	19,560,117円
BBQ食材収入		179	696,070円
販売	弁当	1,119	299,000円
	補食・夜食	34,960	6,353,565円
BBQ付帯収入		990	218,100円
水筒補充用お茶		45,493	1,364,790円
合 計		157,815	102,070,110円

※合計食数には、お茶を含まず。（金額にはお茶・雑収入も含んでいます）

（3）食堂利用実績に対する総括・自己評価

昨年度に続き、フードロス削減に向けた取り組みを強化し、残食量調査やアンケートによる嗜好調査を行い、利用者のニーズに応じた献立作成に努めた。今期は給湯装置の更新を行い、利用者の利便性を高めた。また、アレルギー対応食や宗教対応食、早朝退所団体への時間配慮など、個別の要望にも細やかに対応し、満足度の向上に努めた。集団での食事が困難な児童・生徒に対しては、別室での個別対応を行うなど、安心して食事ができる環境整備に取り組んだ。厨房設備においては、フードロス対策の一環として少数団体向けの小型厨房機器の活用と、少量調理による廃棄削減を図った。また、野外炊飯や補食・夜食において、アレルギーや疾病による制限食、咀嚼・嚥下障がいのある方へのペースト食や刻み食の提供にも対応し、すべての利用者に対して安心安全な食事提供に努めた。

9. サービスの安定性評価

(1) 収支

項 目	事業計画	実績	対計画比
宿泊部門総収入 ①	99,301,000円	96,590,985円	97.3%
食堂部門総収入 ②	107,632,000円	102,070,110円	94.8%
管理運営委託費 ③	59,958,000円	59,958,000円	100.0%
施設総収入 ④	266,891,000円	258,619,095円	96.9%
宿泊部門総支出 ⑤	162,665,100円	159,635,249円	98.1%
食堂部門総支出 ⑥	104,225,900円	97,219,339円	93.3%
施設総支出 ⑦ (⑤+⑥)	266,891,000円	256,854,588円	96.2%
損益 ⑧ (⑦-④)	0円	1,764,507円	

(2) 部門別収支

(単位：円)

項 目	事業計画		実績			
	宿泊等部門	食堂等部門	宿泊等部門	対計画比	食堂等部門	対計画比
利用料金収入 A	52,060,000		54,579,020	104.8%		
食堂収入 B		106,173,000			101,155,940	95.3%
管理運営事業の活動系事業収入 C	37,594,000		31,916,879	85%		
自主事業部門の活動系事業収入 D	8,690,000		9,456,966	108.8%		
自主事業部門のバーベキュー収入 E	957,000	1,459,000	638,120	66.7%	914,170	63%
管理運営委託費 F	59,958,000		59,958,000	100.0%		
助成金等 G			0		0	
総収入 H (A~G合計)	159,259,000	107,632,000	156,548,985	98.3%	102,070,110	94.8%

事業費用	J	162,665,100	104,225,900	159,635,249	98.1%	97,219,339	93.3%
	人件費	79,542,000	32,374,000	78,059,112	98.1%	23,505,175	72.6%
	本部人件費	3,883,100	3,883,100	4,099,738	105.6%	4,099,738	105.6%
	光熱水費	22,550,000	9,812,000	20,378,595	90.4%	10,878,158	110.9%
	消耗品費	3,960,000	1,905,000	2,950,202	74.5%	1,828,415	96.0%
	宣伝費	792,000	0	997,796	126.0%	0	
	原材料費	12,920,000	49,386,000	10,971,480	84.9%	49,443,445	100.1%
	修繕費	3,300,000	330,000	3,727,759	113.0%	0	0.0%
	手数料	145,000	5,000	149,001	102.8%	-1,320	-26.4%
	委託料	11,552,000	0	13,566,207	117.4%	0	
	公租公課費	7,855,000	4,710,800	8,337,289	106.1%	4,477,758	95.1%
	賃借料	2,433,000	0	1,353,096	55.6%	3,300	
	施設整備費	0	0	2,023,034		0	
	その他	4,092,000	0	2,282,018	55.8%	0	
	本部事務費	1,820,000	1,820,000	2,524,904	138.7%	2,524,904	138.7%
	自主事業に係る経費	7,821,000	0	8,215,018	105.0%	459,766	
損益	(H-J)	-3,406,100	3,406,100	-3,086,264		4,850,771	

(3) 経営状況分析指標

	事業計画	実績	対計画比	備考
事業収支 (収入(A)－支出(B))	0円	1,764,507円		
利用料金比率 (利用料金収入/収入(A))	19.5%	21.1%	108.2%	
人件費比率 (人件費/支出(B))	41.9%	39.5%	94.3%	
外部委託費比率 (外部委託費合計/支出(B))	4.3%	5.3%	122.0%	
利用者あたり管理コスト (支出(B)/延べ利用者数)	3,068円	3,048円	99.4%	
利用者あたり自治体負担コスト (指定管理料/延べ利用者)	689円	701円	101.7%	

* 事業改善に向けた分析 *

令和7年度の事業運営については、事業収支が1,764,507円の黒字となり、計画時点で見込んでいた収支均衡を上回る結果となった。利用料金比率は21.1%となり計画値を上回った一方、大阪・関西万博開催に伴う貸切バス不足や輸送費高騰の影響を受け、学校団体利用は減少したものの、スポーツ団体や企業利用、自主事業の実施により収入の確保に努めた。

支出面では、人件費比率は39.5%となり、計画値41.9%を2.4ポイント下回った。利用者一人あたり管理コストは3,048円となり、計画値3,068円を20円下回った。一方、利用者一人あたり自治体負担コストは701円となり、計画値689円を12円上回った。一方、外部委託費比率は5.3%となったが、安全確保や施設機能維持を優先し、必要な委託業務を実施したことによるものである。

施設整備では、クラフト室への空調設備設置により館内研修施設の空調整備を完了するとともに、厨房設備や空調設備の更新、漏水箇所の修繕などを実施し、利用環境の向上と施設機能の維持を図った。

今後も利用ニーズの変化を踏まえ、自主事業の充実による利用促進、人材確保、計画的な施設整備及び適正な経費管理を進め、持続可能な施設運営に努めていく。

10. 利益処分計算書

1. 当期末処分利益	A	= (1) - (2)	1,764,507
収益総額	(1)		258,619,095
支出総額	(2)		256,854,588
2. 大阪府への納付金	B	= A / 2 (マイナスの場合は0円)	882,254
3. 指定管理者への分配額	C	= A - B (マイナスの場合は負担額)	882,254
公益財団法人大阪ユースホステル協会	C × 0.7		617,577
一般財団法人大阪府青少年活動財団	C × 0.3		264,677
4. 時期繰り越し収支差額			0